

2015日本ストックホルム青少年水大賞 募集要項

1. 日本ストックホルム青少年水大賞の目的

水質汚濁、水資源の不足、洪水災害などの水問題は、21世紀が水の世紀になるといわれるほど国際的に大きな課題になっています。そのため、すでに国内はもとより、世界各国の関係するあらゆる分野で国際的な協力の下に様々な取り組みが進められています。これらの国際的、かつ総合的な取り組みが、持続可能な水資源の管理にとって必要不可欠なことであります、とりわけ将来をになう青少年の水環境問題に対する理解と努力に大きな期待が寄せられています。

日本においても、近年は水環境問題に対する児童、生徒の关心が高くなり、学校や地域社会で環境保全のための有意義な活動が活発に行われるようになりました。高校においては、実践的な社会活動とともに、水質保全、河川生態、水資源管理などの川や水に関する学術的な調査研究も積極的に実施されています。その結果、これまでの日本水大賞においても高等学校から多くの応募があり、受賞の栄に輝いています。

一方、スウェーデンにおいては、ストックホルム水基金が、世界的に権威のあるストックホルム水大賞の一環としてストックホルム・ジュニア・ウォーター・プライズ（以下SJWPという）を実施しています。そこでは世界各国の青少年を対象にして生活の質の向上および水環境における生態系の改善に寄与する調査研究活動を表彰しています。このSJWPの国際コンテストは、ストックホルムにおいて毎年夏の世界水週間の期間中に行われ、参加各国から選出された代表者が、調査研究の成果を発表して受賞者が決定されています。

そこで2002年から日本水大賞の中に日本ストックホルム青少年水大賞を設け、SJWPに派遣する候補を選定しています。本賞を実施する為に日本水大賞委員会が、企画・運営・審査を行います。

2. 募集の対象

2-1. 応募者の条件

国際コンテスト開催時（来年8月頃）に20歳以下の方で、高等学校または同等の学校（高等専門学校については1～3年生まで）に在籍している生徒または生徒の団体（クラブなど）が応募できます。ただし、大学生（高等専門学校については4年生以上）は国際コンテストには参加できません。

2-2. 応募活動の内容

日本ストックホルム青少年水大賞は、地球温暖化により深刻化する洪水や渇水の対応はもとより、水質改善、水資源管理、水保全または水や排水の浄化による生活の質の向上を目指すなど、水問題を解決するための理論的および応用的調査研究活動を対象とします。なお、統計解析を含めて、実験、観測、結果報告において科学的に妥当な手法を用いることが条件です。

3. 日本ストックホルム青少年水大賞の内容

応募いただいた作品の中から、優れたものに対して、以下の賞を授与します。

大賞【グランプリ】：賞状・副賞20万円、国際コンテストへの参加費用（詳細は9-4参照）

優秀賞：賞状・副賞10万円

審査部会特別賞：賞状・副賞10万円

4. 応募方法

4-1. 提出書類

提出書類は、電子データ（CD-ROM等）と出力書類を提出してください。

応募用紙の取得は、ホームページからダウンロードしてください。

(諸事情によりダウンロードができない方はご連絡ください)

①日本ストックホルム青少年水大賞申請書

A4サイズの用紙に以下の事項を記載する。

- ・調査研究の標題（フリガナ）
- ・学校名（フリガナ）
- ・学校の住所（フリガナ）、電話番号、FAX、E-mail
- ・指導教諭名（フリガナ）、電話番号
- ・応募者の氏名または団体名（団体の場合は団体名の下に代表者3名の氏名を記載する）
- ・応募者の住所（団体の場合は代表者3名）
- ・応募者の生年月日と性別（団体の場合は代表者3名）
- ・応募者の略歴と将来の志望（団体の場合は代表者3名）
- ・過去の受賞歴

②調査研究報告書

報告書は、日本語または英語により以下の事項を満たしていること。

- ・日本語での報告書の文書スタイルは、文字設定（1行40字、40行、横書き）、用紙設定（A4サイズ、単票、縦方向）とし、書体はMS明朝（標準）、文字サイズは10.5ポイント（標準）とする。
- ・英語での報告書の文章スタイルは、文字設定（Times New Roman 12ポイント、行間1.5スペース「ただし前付は行間1スペース」）、用紙設定（A4サイズ、単票、縦方向）とする。
- ・報告書全体で前付と図表を含め20ページ以内とする。
- ・報告書は以下に示すような章に分割することが望ましい。もちろん若干違う章立てをしてもよい。
表紙（Title page）、前付（Preliminary Matters）、序論（Introduction）、研究材料と研究方法（Materials and Methods）、成果（Results）、考察（Discussion）、結論（Conclusions）
参考文献（References）、追補（Annexes）

前付

これは表題と本文の間に挿入するページであり、以下の事項をこの順番で記述する。

- (a) 報告書の要旨 – 行間隔を1行として1ページ以内。なお、要旨は報告書をまとめた最後の段階で書いた方がよい。
- (b) 目次（各章節を記載する）
- (c) 報告書で使用する略号および頭字語
- (d) 謝辞（プロジェクトの実施を援助してくれた人の名前および感謝の言葉。どの程度の援助を受けたかを必ず記述する）

4-2. その他

ホームページでは、日本ストックホルム青少年水大賞の、過去の各賞受賞作品を公開しています。ご応募いただいた書類は、日本水大賞委員会に帰属するものとし、書類を基に資料を作成、公表することを妨げないものとします（入賞作品についてはホームページ上で公開いたします）。
また、ご応募いただいた書類、資料は返却いたしません。

※応募により取得した個人情報は、個人情報保護に関する法律の法令および関係法令を遵守します。

5. 募集期間

平成26年7月7日～10月31日（郵送の場合は当日消印有効）

6. 選定の方法

水分野の専門家によって構成される審査部会において書面審査し、上位数チームが選ばれます。次にその上位数チームを対象に2分程度の概要説明（可能であれば英語で説明）、10分程度のプレゼンテーションソフトによる発表、面接を経て、日本ストックホルム青少年水大賞候補が選ばれ、最終的に日本水大賞委員会が決定します。

（一次審査を通過した上位数チームには2月中旬までに二次審査日をご連絡します）

7. 審査基準

7-1. 一次審査（書面）

以下の基準に従って書面審査が行われ、上位数チームが選出されます。

○妥当性

- ・プロジェクトは、水環境が抱える重要な課題に的確に取り組んでいるか
- ・科学的妥当性があるか（基礎研究、応用研究に相当する科学的水準に達しているか。また結果が直接現場で利用できるか）
- ・プロジェクトは、環境または生活の質の向上に貢献している内容か
- ・プロジェクトは、未解決の問題に新しい解決法を提案しているか
- ・水問題に対する意識を高めるものであるか
- ・環境問題と社会問題を融合する内容であるか

○独創性（プロジェクトには、下記に関する独創性がみられるか）

- ・着眼点
- ・問題解決の方法
- ・データ解析
- ・実験あるいは調査
- ・実社会での問題提起・啓発

○方法論

- ・明確な発想に基づいて結果を得ようとしているか
- ・問題点は明確にされているか
- ・問題点をどのように限定しているか
- ・それに従って作業が計画されているか
- ・結論を裏付けする十分なデータがあるか
- ・データの解釈を違える可能性が考慮に入れられているか
- ・調査を継続するための新たな疑問や提案があるか

○テーマに関する知識（関連分野の文献や実施中の調査にどの程度、精通しているか）

- ・調査研究はどのような出典に基づいているか
- ・参考文献の一覧表は適切か（参考文献は実際に利用されたのか）
- ・科学に関する一般的な情報源をどの程度、参考にしているか
- ・取り上げたテーマに精通しているか
- ・取り上げた分野での最新の調査研究や専門用語について知識があるか
- ・本研究成果以外にも代替的な解決策を知っているか

○実用技術

- ・保護者、教師、専門家からどのような支援を受けたか
- ・実験・測定などをおこなったか
- ・学校で入手可能な材料（知識・道具・設備）を利用したか
- ・利用可能な技術が十分に活用されているか

○報告書

- ・プロジェクトを正しく適切に表現できているか
- ・報告書で使用した文章、イラスト、図表、語彙は適切であるか

7－2. 二次審査（発表と面接）

以下の審査基準に従って、一次書面審査で選出された上位数チームに対し、2分程度の概要説明（可能であれば英語で説明）、10分程度のプレゼンテーションソフトでの発表と面接による審査が行われます。審査地は東京（予定）で生徒3名以内、指導教諭1名の規定の旅費（遠隔地の場合は規定の宿泊費）を日本水大賞委員会が負担します。

○プレゼンテーションソフトによる発表と面接

- ・プレゼンテーションによる活動発表内容は正しく表現できているか
- ・プレゼンテーションと報告書に適切な関係があるか
- ・プレゼンテーションに独創性や個性があるか
- ・魅力的なプレゼンテーションであるか

8. スケジュール

平成26年	7月 7日（川の日）	募集告知
	10月31日	応募締め切り（郵送の場合は当日消印有効）
平成26年11月～27年1月		一次審査（書面）
	2月	二次審査（発表、面接）
	3月	各賞の受賞者の発表
	6月下旬～7月上旬（予定）	表彰式および受賞活動発表会
	8月中旬～9月上旬（予定）	S J W P国際コンテスト参加

9. S J W Pについて

9－1. S J W P国際コンテスト

国際コンテストは、毎年夏にストックホルムで、世界水週間の期間中に開催されます。この間、参加各国から選出された候補者は約1週間ストックホルムに招待されます。これらの候補者は、事前に英文報告書を提出し、国際コンテストの期間中には、調査研究を紹介するポスターなどの展示物を展示し、審査員に説明し質問に答える必要があります（この際必要に応じて指定の通訳が用意されます）。

9－2. S J W Pの賞金

S J W Pの優勝者には15,000USドル、学校には5,000USドル、優秀賞には3,000USドルの賞金が贈られます。（2014年実績）

9－3. 審査

審査は水分野の専門家からなる国際選考委員会により行われ、次の4段階があります。

- 1) 英語論文の検討

- 2) 事前審査
- 3) 国際コンテスト会場において生徒と面談し、調査研究についてインタビューする。
(1組2～3人の審査員の前で、プレゼンテーション5分と質疑応答の約10分、計15分以内で3組行う)
- 4) 審査基準に基づく大賞受賞作品の決定

9－4. 費用負担

国際コンテストに参加するために、日本水大賞委員会は以下の費用を規定により負担します。

- ・国際コンテストに提出する調査研究報告書の英文翻訳（必要に応じて）
- ・ポスターなどの展示物の作成
- ・受賞者3名以内および指導教諭1名のストックホルム渡航滞在費用
- ・国際コンテストにおける通訳

9－5. その他

S J W P の詳細は、公益社団法人日本河川協会のホームページを参照してください。下記の文書の英文および翻訳和文を掲載しています。

『 Stockholm Junior Water Prize - 2011 Handbook for National Organizers 』
(2011ストックホルム青少年水大賞 -国内運営委員会の手引き-)

10. 主催等

10－1. 主催

日本水大賞委員会

名誉総裁	秋篠宮文仁親王殿下
委員長	毛利 衛（日本科学未来館 館長）
副委員長	虫明功臣（東京大学 名誉教授）
委員	赤星たみこ（漫画家）、石井弓夫（株）建設技術研究所相談役）、大垣眞一郎（公益財団法人 水道技術研究センター 理事長）、大田 弘（一般社団法人 日本建設業連合会環境委員長）、小川賢治（一般社団法人 日本経済団体連合会 廃棄物・リサイクル部会長代行）、進士五十八（東京農業大学 名誉教授）、須藤隆一（生態工学研究所代表）、千賀裕太郎（東京農工大学 名誉教授）、徳川恒孝（WWFジャパン会長）、藤吉洋一郎（元NHK解説委員）、松田芳夫（一般社団法人 全日本建設技術協会 会長）、溝口 烈（読売新聞東京本社 取締役編集局長）
特別委員	(H26.7.8現在) 本田 勝（国土交通事務次官）、鈴木正規（環境事務次官）、村木厚子（厚生労働事務次官）、皆川芳嗣（農林水産事務次官）、山中伸一（文部科学事務次官）、立岡恒良（経済産業事務次官）

国土交通省

10－2. 後援

環境省、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、公益財団法人河川財団、公益社団法人環境科学会、一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人砂防学会、水文・水資源学会、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)、全国市町村教育委員会連合会、全国水防管理団体連合会、一般社団法人全国治水砂防協会、全国都道府県教育委員会連合会、全国内水面漁業協同組合連合会、全国水環境交流会、電気事業連合会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本河川協会、公益社団法人日本下水道協会、地方共同法人日本下水道事業団、一般社団法人日本工業用水協会、公益社団法人日本港湾協会、公益財団法人日本自然保護協会、公益社団法人日本水道協会、日本生活協同組合連合会、一般財団法人日本ダム協会、公益社団法人日本地下水学会、一般社団法人日本の水をきれいにする会、公益社団法人日本水環境学会、公益財団法人日本野鳥の会、日本陸水学会、一般社団法人日本森林学会、公益社団法人農業農村工学会、一般社団法人地域環境資源センター、独立行政法人水資源機構、読売新聞社、独立行政法人国際協力機構

10-3. 協賛（スポンサー）

(株)建設技術研究所、(株)東京建設コンサルタント、日本工営(株)、
パシフィックコンサルタンツ(株)、ライオン(株)、「川の日」実行委員会

11. 送付先・問い合わせ先

公益社団法人 日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-5 麹町E.C.Kビル3階

TEL 03-3238-9771 FAX 03-3288-2426

URL <http://www.japanriver.or.jp/sjwp/> E-mail taisyo@japanriver.or.jp

担当 小野、佐藤（平日9：15～17：30）

〈本事業は、公益財団法人 河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています〉